

観光～インバウンド戦略 大分の「活性化」「稼ぐ力」にどう結びつけるか～

おおいた活性化フォーラム
【九州財務局大分財務事務所】

インバウンドの経済効果

- ・市場は拡大
(2017年2,869万人、2020年4000万人、2030年6000万人)
- ・観光消費額も拡大
(2017年4.4兆円、2020年8兆円、2030年15兆円)

【出所：観光庁統計・観光立国推進基本計画】

- ▶「旅行」＝「個人消費」、地域の「稼ぐ力」に直結。
- ▶直接的な観光消費に加えてさまざまな業種への波及が期待され、数字に表れる以上の経済効果があり、裾野は広い。
- ▶インバウンドは順調に増加しており、人口減少の中でも今後の伸びが期待できる市場。(人口減少をインバウンドで解決。)

ラグビーW杯といったビッグイベントに向け県民が集中して取り組むことで、インバウンドの重要性を再認識し、今後の伸びを引き出す。

県民意識の
醸成を推進
力とする。

大分の魅力である「日本一の素材（温泉、自然、歴史文化財）」を活かし、「情報把握力・発信力」「つながり・連携」を進展させる。

ニーズの把握・情報発信

- ▶セグメント(国、旅行に対する志向等)を意識したニーズの把握、マーケット(市場)分析により、外国人目線で素材に磨きをかける。
- ▶留学生ネットワークを最大限活用し、母国向けの情報発信を強化。旅行前に大分を検索してもらう取組みを進める。
- ▶ガイド本やメディアを使ったPR、SNS等を使った情報発信、多言語コールセンターの活用を促進していく。

キャッシュレス化の推進

- ▶決済の多様化(クレジット決済、QRコード、仮想通貨)を一気に進め、キャッシュレス推進県にすることで、消費を呼び込む。
- ▶販売側も、外国人に気持ちよく消費してもらうため、キャッシュレスを前提としたビジネスモデルを確立させる。
- ▶キャッシュレスに対するリスクやセキュリティ面の啓蒙活動を進め、現金主義からの意識を変えていく。

広域(地域間)連携

- ▶県内の連携(「強み」である別府、湯布院からの広がり)強化、2次交通の多様化(レンタカー、高速バス等)を図る。
- ▶おおいたイン、おおいたアウトの発想転換。大都市圏(羽田・関空)、福岡圏からのアクセスを強化し、大分にも宿泊してもらう。
- ▶高付加価値化(コンシェルジュ機能、高級料理、贅沢品等)により魅力を創出し、滞在期間の延長によるもう一泊、もう一品を引き出す。